

「技工と臨床を考える～開業歯科医の立場から」

飯塚市開業 山口 章

(略歴)

1980年3月 九州大学歯学部 卒業

1980年4月 九州大学歯学部歯科補綴学第2講座 入局

1980年7月 同講座 医員

1982年4月 同講座 助手

1982年10月 同講座 退局、現在地にて開業(現在に至る)

(所属学会)

日本補綴歯科学会

日本口腔インプラント学会

日本臨床歯周病学会

開業して30有余年が過ぎました。実は縁有って開業直後から暫くの間、技工物の大半を臨床模型の提供という形で九歯技にお世話になって来ました。今回このような機会を与えていただくことになりましたが、そのお礼の意味も込めて、これまで臨床を行う中で私なりに考えて来たことを述べさせていただければと思います。

大学卒業後、暫く補綴科に席を置いておりましたが、その間は全ての技工を自分で行っておりました。その経験から、補綴には多少の自信もあり、ある程度は客観的に技工の評価もできるという自負を持って臨床に臨んで来たつもりです。しかし、現在は開業当初とは違い、インプラント治療の急速な進歩・新しいセラミック材料の開発・CAD/CAM技術の進展等、補綴に関わる分野が大きく変貌を遂げ、歯科医師にとっても技工士にとっても難しい新しい時代になりつつあると思います。このような中、私の経験を振り返りながら、診療室と技工士の良好な連携について考える良い機会になれば幸いです。